

# 謹賀新年



町長 佐瀬 哲司

## 地方の時代は 実行の時代と確信

輝かしい、一九八〇年の新春を迎えるにあたり、一万四千町民の皆様は、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年、誠に多事多難の年でございました。

統一地方選挙による、知事、県議選挙を始めとし、町議会、町長選挙、最後は衆議院選挙に至るまで、本日に、選挙の年と言っても過言ではありませんでした。

一九八〇年代は、地方の時代の幕明けと言われておりますが、この重要な時期に、不肖私も再度選ばれまして、横芝町の首長として町長の座に、着かせていただき、責任の重且つ大なるを、痛感いたす次第でございます。

第二次オイルショックの引き金

と言われおりますイランを中心とした、中東問題を始めとして、

隣国の朴大統領暗殺による後継問題、あるいは、日中を中心とした問題等、日本をとりまく対外的な諸問題が、揺れ動いております。

また、経済不況の波も、政府の積極的な施策にもかかわらず、景気の安定は、未だ遠しの感がございます。

このため、地方自治体の財政はますます厳しいものになると、思われますが、長期的展望に立つて計画的財政のもとに、町政を推進してまいりたいと思っております。

私は、地方の時代は実行の時代であると思ひ、年頭にあたり、本年度以降の横芝町の重要施策として、強力に押し進めて行きたいと考えております。五点のプロジェクトを掲げ、広く、関係町民各位のご協力を、お願い致す次第であります。

ります。

まず第一点は、成田国際空港問題の関連事業と致しまして、坂田池地先を基点として、長倉・姥山・遠山・中台を結ぶ延長四、六キロメートル、幅員八メートルの産業開発道路の着工であります。

総工事費約八億円のこの道路を芝山と蓮沼を結ぶ空港関連道路と連結致し、続いて二期工事として

将来は、この道路を上町・本町・栗山・海岸、十三キロメートルの町縦断幹線道路として、整備致します。

第二点は、坂田池を中心とした開発であります。

すでに、水資源開発公団により調整池として、昭和四十八年に計画が発表になり、一部、栗山川よりの送水管工事は完了致しておりますが、池の浚渫及び、周辺の環状道路の着工が、経済の不況によ

り、工業用水の需用が無いため、六十三年まで延期になっておりましたが、幾度となく陳情の結果、本年度着工の見通しがつきました。私は、この池の整備とタイアップして、観光に、あるいは青少年の健全育成のための、一大運動公園に致す計画であります。

第三点は、駅裏の開発であります。現在、コンクリート製品を中心とした二工場の移転中でありまして、この工場の移転を、現在交渉中でございまして、用地の確保ができれば、工場は移転してもよいと言ふ内諾を得ている工場もありませんので、早々にこの移転先の用地の確保に、総力をあげて着手する決意であります。

この開発により、古川地区と東町方面との交流ができ、新しい市街地が形成される事でしょう。

第四点は、善新堂跡地の利用であります。位置的に町のほぼ中央に在り、全町民が、等しく利用可能な、多様で総合的な機能を備えた町民共通の広場とし、激動する政治経済、社会情勢、変化する社会的活動の中核的役割を果たすものとして、スポーツやコミュニティ活動の施設を収容するふれあいの場と致したいと考えてあり「町民プラザ(広場)」として、専門家による概況設計も、できあがりました。

この施設を、昭和五十五年度農村総合整備事業により、国・県の補助で、実施設計に入り、一期工事として、昭和五十六年度に、町民体育館を着工する予定であります。

第五点は、成田空港騒音対策により、都市計画区域としての指定を受け、上町・本町・東町・栗山地区の市街地を中心とした、下水道の整備計画に入りたい所存であります。

栗山地区に一部着工しております下水道は、町単独の事業の簡易下水道ではありますが、昭和五十五年度予算を重点的に投入致しまして、モデル的にこの地帯の、下水道整備を実施致す所存であります。

以上、八十年代の幕明けに、所信の一端を述べさせて頂いたわけですが、私は常に、町づくりの基本理念は、町民に密着した、ガラス張りの町政でなければならぬと確信いたし、新たな決意をもって、「明るく住みよい横芝町」を実現するため、全力投球を致しますので、町民の皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

五十五年が、皆様にとりまして、幸多き年でありませうお祈り申し上げます。新年のごあいさつと致します。